NEWS LETTER
平成２３年９月１日発行
日本生徒指導学会関西地区研究会

日本生徒指導学会関西地区研究会第4回大会を開催しました

日　時：平成２３年８月６日(土)　１０：００～１６：３０
場　所：大阪府私学教育文化会館
テーマ：「関西発！つながる生徒指導」

★開会あいさつ〔日本生徒指導学会関西地区研究会　会長　森田 洋司〕

本研究会の森田洋司会長から挨拶がありました。現在、日本は経済的な要因に加えて、震災の影響で厳しい状況にあるが、これは日本の１つのステージであり、変わっていく始まりではないだろうか。これからは、こどもの問題解決には学校と関係機関との行動連携が一層大切になるだろう。

第４回を迎えた本研究会は、当初から研究者の論文発表等の場ではなく、「現場のための生徒指導」を掲げ、学校現場の教員、行政、研究者が手を組んで、子どもたちをどうするかについて考えていくことを目的にしている等の話がありました。

★講演概要〔立命館大学産業社会学部 教授　野田正人〕

「これからのつながる生徒指導」～教育・福祉・司法の視点から子ども支援～をテーマにご講演いただきました。

○非行の減少の要因は、日本の教員の生徒指導対応レベルの高さにあるにもかかわらず、学校と教師の自己肯定感は高くない。成功していることを正しく評価されていないからではないか。
○生徒指導は、正しい「児童生徒理解」が大前提であり、そのためには、生徒指導提要にも書かれているように、正確なアセスメントが不可欠である。
○教育・福祉・司法が、一番のりしろを深くとらなければいけないのが児童虐待である。
○児童虐待が０になれば、日本の生徒指導の総量は１／３になる。児童虐待のことを知らずに生徒指導をするなと言わざるをえない。従来９割くらいの生徒にうまくいっていたやり方が通用しない。暴力行為や自殺にも児童虐待が背景にあることが多い。
○関西の生徒指導では家庭訪問等「足の裏の生徒指導」は当たり前であるが、他の地域ではそうではない。
○虐待防止は、子どもの問題行動への対応と重なる。
○他の関係機関との行動連携では、こちらの思うように相手に協力してもらおうとすると失敗する。虐待の通告は、協働作業の始まりである。
○要保護児童対策地域協議会を活用した連携は参考になる。

★自由研究発表

研究・実践報告等４本の応募があり、２会場に分かれて行われました。第１会場では、中間茂治氏(藍野学院短期大学附属藍野高等学校)による「『生きる力』を育てる全寮制教育４年間の取り組み」と、兵庫県立但馬やまびこの郷による「不登校経験者に聞きました－但馬やまびこの郷利用者アンケート調査結果の分析」の２本の発表がありました．第２会場では、西村純一氏(尼崎市立大庄北中学校)による「中学校における暴力行為予防のための教員研修プログラムにの実践」と、仲村和之氏(兵庫教育大学大学院)による「定時制高校生の学校適応感とレジリエンスに関する基礎的研究」の２本の発表がありました。

★分科会

(1)第１分科会

まず、福田綾子氏(甲賀市立水口小学校教諭)が「アセスメントに基づいた効果的な支援の在り方～役割を明確にし、連携を大切にした教育相談体制～」と題し、ＳＳＷの視点に基づく連携を重視した組織的な支援の在り方について報告がありました。続いて、笠川常彦氏・山本洋祐氏(大津市立石山中学校教諭)が「きっとあなたも好きになる～ｉｉｓｍ．(石山イズム)の提唱が生み出したもの～」と題し、石山イズムのスローガンのもと「開かれた学校づくり」を推進するなかで、地域で子どもを育てる気運が高まり、問題行動の減少に結びついたという報告がありました。最後に、後藤喜代嗣氏(滋賀県立伊吹高等学校教諭)が「当たり前の先にあるもの･･･伊吹高校の挑戦」と題し、「当たり前のことを当たりまえに」という校是のもと、「凡事徹底」を行うことにより生徒指導で成果を上げているという報告がありました。

(2)第２分科会

「発達障害と生徒指導」について、後野文雄氏(京都府総合教育センター人材育成支援室チーフアドバイザー)が講義を行いました。前半は、多発している問題行動の背景には、発達障害に起因するものが多いため、発達障害を正しく理解し対応する必要があることを、ご自分の経験や事例を交えて話されました。後半は、すべての子どもを支えるという視点に立って、教育のユニバーサルデザインの構築のために、学校の組織的な取組、生徒のやる気や家庭の支えを引き出すための具体例を話されました。

(3)第３分科会

梅田真寿美氏（奈良市立西大寺北小学校長）が、「規範意識を高める家庭教育へのアプローチ」というテーマで実践報告を行った後、グループ協議を行いました。奈良県すべての保育所・幼稚園で取り組まれている「おはよう・おやすみ・おてつだい」約束運動の内容・手法とアンケート結果をもとに、全体で取り組むことの有効性、小学校段階への継続方法や意識の低い保護者へのアプローチについて協議しました。

(4)第４分科会

第４分科会では、「学級・学年経営における生徒指導と小中連携・協働の取組」というテーマで、古城門和磨氏（神戸市立高津橋小学校)、芝雅博氏（神戸市立玉津中学校）に、それぞれ実践報告をいただきました。協働・チームワークを大切にした生徒指導、子どもを中心に見据えた学年・学級経営等についての具体的実践が報告されました。また、小中連携や関係機関との連携についても報告がありました。終わりに、住本克彦氏（環太平洋大学次世代教育学部教授）から、まとめ及び指導助言をいただきました。

平成２３年度「元気の出るセミナー」

第１回「京都市教育委員会勤務１８年(パトナ・生徒指導課)から見えてくるもの」
講　師　京都教育大学教授　桶谷　守　氏
日　時　１０月８日(土)　１０：００～１２：００
場　所　京都市教育相談総合センター「こども相談センターパトナ」会議室

第２回「学校園で取り組む児童虐待防止について」
講　師　弁護士・ＮＰＯ法人ＴＰＣ教育サポートセンター代表
峯本　耕治　氏
日　時　１２月１０日(土)　１０：００～１２：００
場　所　大阪府私学文化教育会館　４Ｆ　蘭の間